

## 事業の概要

## 【実施背景】

- 狛江市では、平成30年3月に、学校・家庭・地域が一体となって効果的に主権者教育を推進することを目的として「狛江市総合的な主権者教育計画」を策定した。主権者教育を、単に選挙や政治について学ぶといった考えでなく『社会的意思決定を学ぶことと幅広く捉え、考える力や判断する力を醸成することに繋げること』と定義し、子ども議会も本計画における取組と位置付けた。

## 【事業内容】

- 子どもたちが行政に単発的な質問を行うだけに留まっていた「子ども議会」を、“自分にとっての課題”を“地域の課題”に発展させる「ワークショップ」と一体的に実施することによって、地域課題の解決に向けた子どもたちからの行政への提案の場として発展させた。

## 〈ワークショップの主なテーマ〉

- ・ いろんな多摩川を発見する（多摩川の利活用や歴史、災害を学ぶ）
- ・ ワクワクする未来を考える（多摩川に行き、目で見て体験・考える）
- ・ 新しい価値観をつくる（「こまえをこんな街にしたい」として話し合い・まとめる）
- ・ 自分たちの考え・アイデアをまとめる（質疑に落とし込み、発表の練習を行う）
- ・ 新しい価値を届ける（子ども議会を開会し、議会答弁の内容に沿って質問を行う）

## 【事業実績】

- 事業費 954千円



## 事業の効果、今後の展開など

- ワークショップ参加者が子ども議員となり、市長・副市長・教育長・各部長に対して、一般質問形式にて提案を行った。市の運営の仕組みや現状課題の把握、それを踏まえての提案を行うなど、議員としての役割を疑似体験した。本事業により「ワークショップ」を「子ども議会」と一体的に実施するフローを作成することができた。